

◎ 彙報

第五四回原爆文学研究会

- 日時 二〇一七年二月二三日(土)
- 会場 広島大学東千田キャンパス東千田校舎A棟二〇七講義室
- 研究発表

ヒロシマの「荒地」——ステイブ・スペンダーの

広島講演会(一九五八年)を中心に 齋藤一

- 刊行記念ワークショップ

『原爆』を読む文化事典』を読む」

書評 東 琢磨

権 赫泰

伊藤 詔子

リブライ

川口 隆行

司会 中野 和典

第五五回原爆文学研究会

- 【一日日】二〇一八年三月二四日(土) 一三時より

- 会場 長崎大学環境科学部大会議室

- 研究発表

聞こえない人々の原爆の語り——ろう学校をめぐる

四條 知恵

米国の言説空間においてナガサキを語り直すということ

—— Susan Southard *Nagasaki Life After Nuclear War* (2015)

永川 とも子

(De)colonizing (cold) War military landscape and

Ecopolitical film in South Korea and Japan

(韓国および在日被爆者映画における冷戦軍国

主義の風景の(脱)植民地化)

安 ミンファ
通訳 松永 京子

- 【二日目】二〇一八年三月二五日(日) 一〇時より
- 研究発表

一九五〇年代前半期の長崎における平和運動と被爆者運動

新木 武志

軍隊と民衆——原爆被災を通じて考える

山口 響

第五六回原爆文学研究会

- 日時 二〇一八年七月二八日(土)
- 会場 神戸センタープラザ17号会議室
- 研究発表 憲法の間観と災害(核被害)
- ワークショップ

炭鉱と原爆の記憶——文化運動・被爆朝鮮人・遺構から考える

司会 楠田 剛士

報告1 一九五〇年代「原爆の図展」と炭鉱文化運動

岡村 幸宣

報告2 炭鉱と原爆をつなぐ——雑誌『辺境』を視座に

奥村 華子

報告3 遺構を通して考える(炭鉱)と(原爆)

木村 至聖

全体討論

※二日目の日程は台風のため中止。